

女子サッカーは社会を変える — WEリーグの開幕

小林 美由紀

女子サッカーというと、2011年 FIFA 女子ワールドカップで優勝したなでしこジャパンを思い浮かべる方も多いだろう。東日本大震災で沈んでいた日本を勇気づけたニュースだった。その10年後の2021年、日本初の女子プロサッカーリーグ、WEリーグが開幕した。WEとは、WOMEN EMPOWERMENTの略、そして「私たちみんなで」という意味が込められている。「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」を理念とし、参入基準に「取締役には女性を最低1名置く」「役員員の半数は女性」「スタジアムには託児施設を設置」などを取り入れている。

スポーツ界は、政治やビジネス界と同じように、男性優位の世界である。オリンピックに出場する選手の割合は、ほぼ男女半数になっているが、女性コーチの数は、いまだに1割強。私が友だちと大学にサッカーチームを立ち上げたとき、男子サッカー部の監督に大目玉を食らった。「女がサッカー?」「マネージャーじゃないの?」と何度聞かれたことだろう。

それから、30年以上が経ち、「サッカー選手」という新しい夢が、少女たちにできたことは非常に嬉しい。とはいえ、日本のサッカー選手登録数に対する女性は、約6%に過ぎないし、サッカーをやりたいと思っている女の子みんなができる環境はまだ整っていない。146カ国中116位という日本のジェンダーギャップ指数は、スポーツ界にも反映されており、世界からも周回遅れという感は拭えない。

WEリーグ発足2年目。ピッチ上や理念推進活動で、選手たちは、「一人ひとりが輝く」多様なロールモデルに向けて一歩を踏み出した。女子が、サッカーやスポーツを気軽にでき、続けられるようになったとき、多様な人々がそれぞれに輝く、生きやすい社会が実現していると信じて、チームスポーツ初の女子プロリーグとして、歩みを続けていきたい。



PROFILE

こばやし みゆき：WEリーグ理事。(一社)全日本大学女子サッカー連盟会長、(公財)日本サッカー協会評議員、早稲田大学非常勤講師。筑波大学在学中に女子サッカー部、関東大学女子サッカー連盟を発足。以降、女子サッカーチームや大会、組織の創設に奔走。日本女子代表チーム総務、日韓ワールドカップの大会運営、ジェフユナイテッド市原・千葉レディースのコーチ、統括責任者などを経て現在に至る。